

岐阜大学は、アグリビジネス創出フェア 2022 に出展します。

リアル展示：10月26日(水)～10月28日(金) @東京ビッグサイト

Web公開期間：9月29日(木)～2023年3月15日(水)

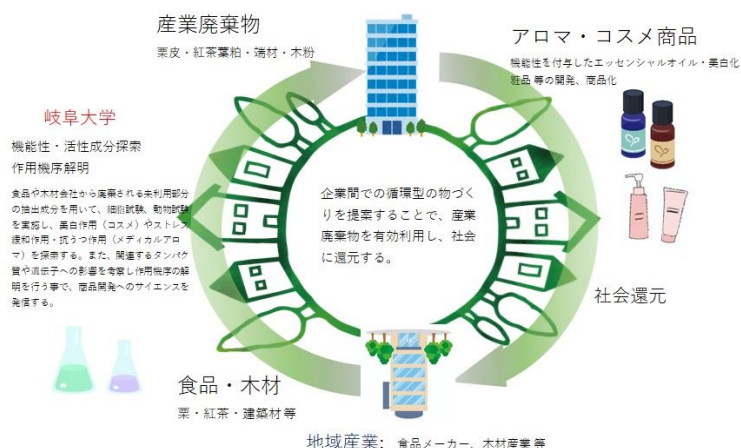
[\(アグリビジネス創出フェアホームページから申込ください\)](#)

出展シーズのご紹介

「地域産業廃棄物からはじまる循環型ものづくり

(メディカルアロマとコスメ商品の開発)」 岐阜大学 地域展開ビジョン

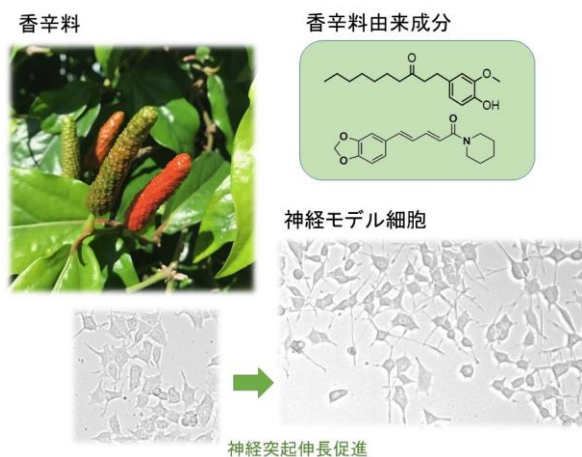
食品や木材業界で未利用部分が大量に廃棄されています。これらの資源から生物活性を有する化合物の構造解析及び作用機序の調査を行います。廃棄物に新たな価値を付与することで大学が仲介した、企業間での循環型の新しいビジネスモデルを提案することができると考えます。



「食品由来有効成分の探索」

山内恒生 応用生物科学部・助教

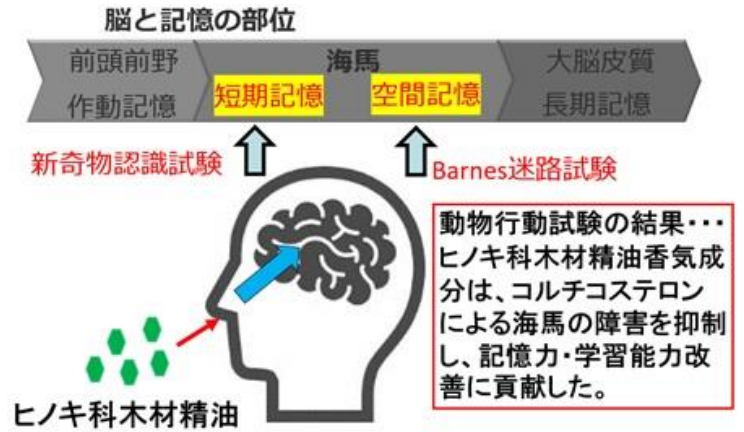
植物に含まれる多種多様な成分の構造と生理活性、及びそれらの作用メカニズムの解明を目指して研究を行っています。これまでに、エスビー食品株式会社との共同研究で香辛料に含まれる有効成分を取り出し、構造解析を行いました。香辛料に含まれる成分が、神経モデル細胞を活性化したり、免疫細胞を活性化することがわかってきました。



「木材精油を用いたメディカルアロマセラピーに関する研究」

光永徹 応用生物科学部・教授

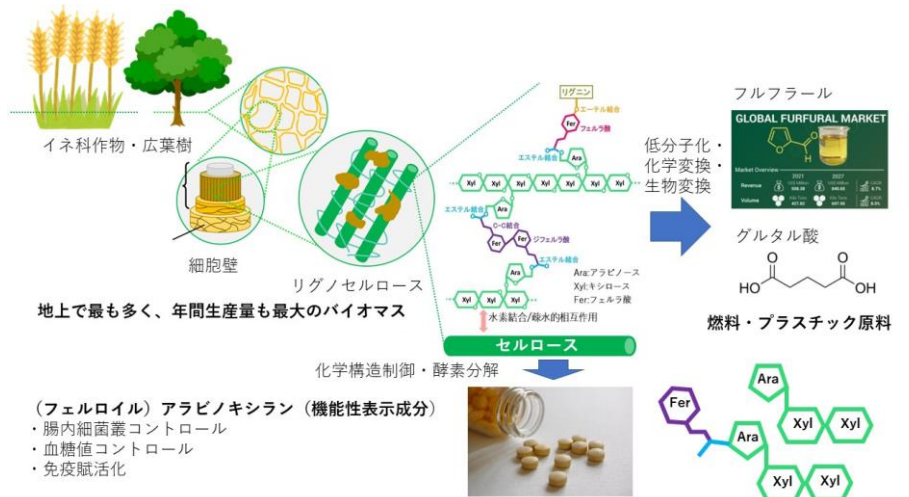
植物精油香気が生理・生体に及ぼす効果について動物を用いて長年研究してきました。その中で、ある種の木材精油香気が、肥満を抑制する効果やストレスを低減し、記憶・学習障害を改善することを明らかにしました。本研究では、オーストラリア産サイプレス材及び日本産ヒノキ科木材の精油香気について、その知られざる生理機能を報告します。



「キシラン（植物バイオマス成分）の化学構造と生合成機構の解明」

鈴木史朗 応用生物科学部・准教授

植物バイオマス（リグノセルロースバイオマス）は、地球上に最も多く存在する有機資源です。キシランなどの植物バイオマス成分の化学構造、生合成、機能、利用に関する研究を行うことで、新規バイオマス作物や、植物バイオマス成分から化成品や機能性成分などを作り出し、社会に役立てることを目標としています。



「機械学習・作物モデルによる収量予測モデルの開発」

田中貴 応用生物科学部・准教授

作物の収量予測は、流通・栽培管理の最適化に貢献します。本研究では、①リモートセンシング技術と作物モデルとのデータ同化や②機械学習モデルを用いることで、作物収量を広域かつ高精度に推定する手法を開発しています。局所的に変動する施肥に対する作物の収量応答性等を解析することで、農家収益の最大化と環境負荷の低減を目指しています。

